校内研究推進計画

2022/5/13
研究推進部

令和４年度　宮前小学校　校内研究テーマ

「見通しをもって やりぬき、学びをともに 描き出す子」

～もっと知りたい！伝え合うって、おもしろい～

メインテーマの頭文字が、「み・や・ま・え」です。

０．今年度の研究推進における前提

○　昨年の７月に、１年遅れの１００周年記念式典があったことで、昨年度の研究は、夏休み明けからの半年間で行った。それ以前の２年間の校内研究は、生活・総合の単元づくりを行い、「授業研」は行っていない。

○「主体的・対話的で深い学び」をキーワードにして、国語科を扱って研究に取り組んだ。

○　各学年２クラス（３クラスの学年は１クラス）の授業研究と、他のクラスの事前授業を公開した。指導案検討は、授業学年と推進委員、教務が参加した。授業後の研究協議では、GIGA 端末を活用した。

○　昨年度の研究を元に、今年度の研究を積み上げていくことができるようにする。そのために、授業を軸にして、宮前っ子にどうなって欲しいのか（目指す姿）、どんな力をつけていきたいのかを考える。そして、「子ども」「学び」「授業」について全教職員で語り合い、同僚性を発揮して、児童理解と授業改善に協働する。

１．研究の目的

校内研究を通して、授業づくりや児童理解、学習指導要領の解釈や指導と評価の在り方などについて、授業公開や研究協議、日々の教材研究や授業実践を通して語り合い、「主体的・対話的で深い学び」の実現を軸として、教員一人一人の授業力向上、未来を見据えた「宮前っ子」に必要とされる資質・能力の育成に努める。そして、「具体的な子どもたちの姿」としての成果（変化）に結び付け、宮前小としての良き学校風土を生み出す（教職員個々の技量・力量に依存しない、学校全体としての力の底上げ）。

→個々の授業力向上。学年内にとどめない授業アイディアの共有。

２．テーマの設定について

研究テーマ・サブテーマは、昨年度「どんなテーマに取り組みたいか」「どんなキーワードが想定されるか」を一人一人が考えるところから出発し、その意見をもとに研究推進部で設定した。

「見通しをもって　やりぬき」は「主体的な学び」、「学びをともに」は「対話的な学び」、「学びを描き出す」は「深い学び」を中心として関わり合う。研究テーマが教員の授業改善、サブテーマが子どもたちの意識や姿の変容に結び付いていくことを期待する。サブテーマは、「メインテーマをより強く意識するためになくしても良いのでは」という声もあったが、国語の授業をつくっていく中で、「あって良かった」という意見もあったので、今年度も昨年度と同様の形で掲げていく。

見通しをもって　やりぬき　→　主体的な学び
学びをともに　描き出す　→　対話的な学び
やりぬき　学びを描き出す　→　深い学び
↑相互に関係

３．研究の重点

①　「主体的・対話的で深い学び」の実践

・宮前小としての定義の模索
・各学年等で目指す姿の明確化と学習の手立ての検討
・子どもたちの学びの姿としての結果を求める。

②国際教室に関わる子どもへの支援や配慮

宮前小在籍児童の特色として、４月現在　在籍児童数７６８人のうち…

●外国繋がり　　約１５０人（約２０％）
●外国籍　　〇人（約〇％）
●国際教室に在籍　　４６人（約６％）［うち外国籍４２人（約５％）］

という実情がある。それに対して「主体的・対話的で深い学び」の実現を、国語科の授業を軸にして進めていくためには、国際教室に関わる子どもへの支援や配慮を考えていく必要がある。それは、国際教室担当教諭とも協働して進めていく。その手立てや配慮事項を、指導案に示す。